

NO. 45
October '08

Newsletters

神戸女学院大学
女性学
インスティテュート

アカデミックハラスメント再考

津田ヨランダ・アルファロ

子どものころ、私は権力者と呼ばれる人々を身近に見てきました。権力の意味はあまり理解できていませんでしたが、話し方、眼付き、態度から関知することはできるようになりました。未だに私は、権力の本当の意味を分かっていないかも知れませんが、その乱用者は、ある種の満足感を得られても、決して幸せにはならないということは断言できます。もうひとつ確かなのは、権力乱用者は加害者であると共に、被害者でもあったということです。

私が20年前、ある日本の国立大学で非常勤講師だったころ、アカデミックハラスメント（以下、アカハラ）という語彙は私の辞書には存在しませんでした。その後、アメリカの大学院で学ぶ機会があり、知識と理解を得たのです。

大学など教育機関の中で発生するハラスメントは、時に裁判所に持ち込まれることすらあります。教育者や研究者としての立派な経歴のある人同士の間でも、道徳観、敬意、権限の使い方といったことが、ゴシップ、妬み、渴望、憎しみなどによって乱され、被害者を作ってしまうのです。ハラスメントには終わりのない悪循環が存在します。大変に残念なことです。

最近、＜闇の子供たち＞という映画を鑑賞しました。タイで多くの子どもが臓器売買や人身取引の被害者となっている現実を直視した素晴らしい作品です。強い者が弱者を虐待します。男性が女性を、また逆に虐待します。同性が同性をという場合もあります。裕福な国の人間が、貧しい国の子どもたちを虐待します。虐待された子どもたちはいずれ虐待側に立つこともあります。暴力が暴力を生むのです。アカハラは、臓器売買や人身取引と同じ暴力の一種なのです。

日本のNPOである「アカデミックハラスメントをなくすネットワーク（NAAH）」によれば、アカハラとは「研究教育の場における権力を利用した嫌がらせ」です。一般にはセクハラも含まれますが、その問題に

対応する体制が整いつつある現在、NAAHでは、「性的でない嫌がらせをアカハラと呼んでいます。それが起きる場面によって、研究活動か教育指導に関するもの、それ以外の職場いびりに類するもの、暴力的発言や行為など相手に身体的・精神的傷害を与える行為に分類することができます。

例えば、研究活動に関する嫌がらせには、研究テーマを強制する行為、機器を使わせない・研究費を取り上げる・出張を認めないなどの研究妨害行為、研究成果を奪ったり論文作成・発表妨害といった行為などが該当します。

教育指導に関する嫌がらせには、指導を行わない、本人の自主性を認めない、学位や単位認定に関して不公平な対応をとる、進路に関して妨害・干渉することが該当します。また、日常の場面では、人格を傷つける言動、悪口や中傷、プライバシーを言いふらすこと、退学や退職を促したり示唆したりすることがあります。

これらは、嫌がらせの意図の有無に関わらず、教育を受ける権利、研究教育を行う権利、働く権利あるいは人格権；自己決定権への侵害に他ならず、アカハラとみなされます。」

この7月に私はフィリピンのミリアムカレッジ（伝統ある名門女子大）を訪問しました。そこでは、すべての教職員は定期的にアカデミック及びセクシュアルハラスメントに関するセミナーを受講することが、義務付けられていました。

また、新入生全員も同様の授業に参加することになっています。学生たちには卒業前に、学部長による面接があり、4年間の生活を自己評価するのですが、多くの学生が、入学直後にハラスメントとそれへの適切な対応について学んだことを高く評価しているようです。

神戸女学院も、ミリアムカレッジとその「ハラスメント対策プログラム」に学ぶことができます。教職員も学生も一丸となってアカハラを撲滅するために。

（文学部准教授：

ジェンダー、移住、グローバリゼーション研究）

 連続セミナー「女性における食と健康」

【第1回：2008年6月20日】……………下内章人

●「呼吸から診た女性の健康」

本講座では女性生理と関連する月経前症候群・更年期障害を中心にお話しました。一般的にエストロゲンやプロゲステロンなどの性ホルモンの変動に伴い、子宮粘膜は増殖・分泌期を迎え、卵巣は排卵準備を行い受精に備える。多くの場合は妊娠しないまま月経を迎え、生殖器は次の受精の準備に入る。こうした周期的なホルモン変動に伴い、女性の40%は多かれ少なかれ月経前症候群を経験すると言われている。月経前症候群はうつ状態や不眠、イライラ感などの精神的症状を伴う。妊娠・出産・育児を終えた頃にはエストロゲンの低下に伴い更年期を迎え脂質異常症や骨粗鬆症などの罹患率が急増する。40～50歳台の女性では夜間睡眠時間の短縮がきわだち更年期症状と考えられる睡眠障害例が多い。このため起床時や日中の疲労感が強く、日中の社会活動障害や抑うつ・不安、心気症などの過剰なストレス反応を誘発する。これが過食や肥満に繋がり、さらに睡眠障害を引き起こし悪循環となる場合がみられる。以上のような当初の標題とはいささか異なるお話になってしまいましたが、雨の中、多数の熱心な聴講者が参加し多くの質問も戴きました。この講義準備がきっかけとなり現在進行中の研究がさらに深まり発展しつつあります。深く感謝申し上げます。

(国立循環器病センター研究所病因部室長：内科学)

【第2回：2008年6月27日】……………笠松千夏

●「匠の技と調理科学との出会い

～食品企業での仕事」

このたび、食品企業における研究・開発について、みなさんにお話する機会を与えてくださったことに厚く御礼申し上げます。調理と加工との違いは、「調理」が特定の人のために食事を用意する操作であるのに対し、「加工」では不特定多数を対象とし、いつでも食べられるかを限定できないため、家庭やレストランとは違った技術が要されます。今回、フレンチのシェフの技術を調理科学の目を持って解析し実際の商品につなげた例と、若年で調理不熟者の実態調査から生まれたサービスの例をご紹介しましたが、参加者の方より、若年主婦の調理実態があまりにもひどすぎるという驚きの感想や、調理というのは、苦手でも続けるう

ちにそれなりに上手になっていくもの、メーカーがあまり便利な商品や丁寧なサービスを提供してしまうと、上達する機会さえ失くしてしまわないかという本質的なご意見をいただきました。「好き」の反対は「嫌い」ではなく「無関心」です。自分で料理することやおいしいものを食べたいと思う気持ちに無関心な人がこれ以上増えないよう、今後も安全で質の高い商品やサービスとは何か問い続けていきたいと思います。

(味の素株式会社食品カンパニー食品技術開発センター
専任課長：調理科学)

【第3回：2008年7月4日】……………西田昌司

●「性差と性差医療」

性差を考える時、性差は生まれつきか、それとも生育環境などの後天的な要素が大きいかと言うことが問題となる。今回は、生物学的な性差に焦点を当てて考えてみる。

生物学的性差は、Y染色体上のSRY遺伝子を中心に決定される。この遺伝子の産物が内生殖器を男性型(精巣)とし、男性ホルモンを分泌して外生殖器を男性型とする。性ホルモンは脳を含む生殖器以外の臓器にも作用し、性的二型を決定する。Y染色体を持たない女性では、女性型の内生殖器(卵巣)が作られ、女性ホルモンによる性的二型が形成される。

しかし平均寿命の伸びに伴い、女性は閉経後の性ホルモン減少によるさまざまな臓器の第二の性差を経験するようになった。一般的に女性ホルモンであるエストロゲンは臓器の保護効果を持つため、閉経後には心筋梗塞や骨粗鬆症、アルツハイマー病などを、男性より高い頻度で経験する。

このような明らかな性差が人間の健康には認められるにもかかわらず、現代の医療では男性中心の研究・治療による医療が行われている。今後、性差に則り、両性の特性に即した「性差医療」が行われていくことが必要である。
(人間科学部教授：健康医学)

【第4回：2008年7月11日】……………高岡素子

●「食べ物に対する身体の応答性について」

第4回目は、食べ物に対する身体の応答性について、自分の研究報告を交えながら紹介した。

スポーツ選手に愛用されているアミノ酸について、一般の人が長期または短期で摂取した場合に起こる身体の反応や、どんなものを食べている人が美しい肌を保持しているのかを調べた、「食と肌の状態の関係」、

< P. 4 に続く >

女性とダイエット —楽しみながらメタボ予防

塩見尚史

ここ数年何度もダイエットに挑戦した私は、そのか
いもなく太り続けてきた。さらに昨年、精神面でスト
レスを受けて体調を崩し、仕事に行くのも憂鬱な毎日
が続いた。「食べては吐く」を繰り返し、胃痙攣で入院
してしまう始末。検査の結果、中性脂肪は500まで跳
ね上がり、心肺能力は100歳レベルに低下、膝を傷めて
まともに歩けず、後頭部には円形のはげができるおま
けつき。ストレスの恐怖を身にしみて体験した。

「これではだめだ」と心機一転、昨年6月にコナミ
スポーツに入会して、トレーニングと食事療法につい
て真剣に取り組み始めた。幸いマウスの細胞を使って
メタボの研究をしていた私は、研究の成果を自分の体
で試すことにした。魚の油と酢の物を食べるなど楽し
みながら食に工夫をこらしただけでなく、コナミに週
3回以上通い、インストラクターの楽しくパワフルな
エクササイズで、いやな事を忘れ楽しく運動した。そ
の結果、3カ月で体重が80kgから69kgまで落ち、中性
脂肪や血圧も正常値に。ドラムカンのような体もアス
リートの体つきになり、基礎代謝量が増えた今では食
べ過ぎてもすぐに痩せられる体になってきた。そして
今年の明るい1年生に助けられ、精神面でもやる気を
少し取り戻した。このようにダイエットを頑張ろうと
して失敗してきた私が、ダイエットを楽しむことで健
康状態を正常範囲に戻すことに成功したのだ。

家事に追われて健康管理を怠ってきた50～60歳の女
性にメタボリック予備軍は意外に多い。メタボリック
シンドロームは、肥満により多くのホルモンが誤動作
して引き起こされるため、誤動作を修正するには痩せ
ることが最も効果的である。しかし、「やせる」＝「食
事制限」ではない。無理な食事制限は、セロトニン低
下やストレスをもたらし、心身に変調を引き起こす。
健康に痩せるには、食事の質を工夫して食べ、楽しみ
ながら運動し、そしてこれらを継続することが大切で
ある。ブームに左右されることなく、普段の食生活
の中でしっかり質をデザインし、「やせるために食べる」
ことがメタボ予防にはよいのではないだろうか。

(人間科学部教授：バイオサイエンス)

インドの貧困女性たちの詩

北川将之

インドのマイクロファイナンスについて現地調査を
していたとき、ある女性たちの集会で思いがけない光
景に出会った。その日は、カトリック教会が主催する
マイクロファイナンスの活動を調べようと思い、教会
のブラザーの二輪バイクに乗せてもらって、ある村へ
出かけた。到着したころには、朝の7時になろうとし
ていた。村の中央にある民家の一室では、数名の女性
たちが何やら準備をしていて、その周囲では子どもた
ちが大声で走り回っていた。ほどなくして集会が始
まった。この日は、子どもたちの教育費を積み立てて、
それを適切に管理運営してゆくことが話し合われた。
集会の取りまとめ役であるブラザーは、女性団体の積
立通帳を開いて、数字があっているかひとつひとつ細
かく確認していった。その間、子どもたちは学校で
習った物語の一節をアレンジして芝居の練習をしてい
た。女性たちはその芝居をみて嬉しそうに笑っていた。
とにかく騒々しい雰囲気でミーティングは進んだ。さ
て、今日はこれで終わりかな、と思ったその時、誰か
の掛け声を合図にして、女性たちが一斉に大きな声で
歌いはじめた。

「私の夫の家族は格式高い家族 小さな失敗も見逃
さない もし夫とけんかでもしたら 追い出されてしま
う わが愛する姉妹たちよ どこに行こうとも あ
なた達より愛おしい者はいない」

このとき、わたしは女性の誰もが歌詞をすべて暗記
していることに大変驚いた。南インド農村のマイクロ
ファイナンスの一部では、皆で合唱する習慣がある。
だが、往々にして集会の歌はNGOなどがチームワー
ク向上を目的として女性たちに教えたものであり、当
の本人たちはあまり乗り気ではなく、歌詞を覚えてい
ない場合が多いからだ。不思議に思って「これは有名
な歌なのか」と尋ねると、「いやこれは畑仕事のと
きの歌だよ」という。そう言われれば、淡々とリズムを
とりながら歌っている女性たちの表情は、子どもたちの
芝居をみていたときのあの笑顔とは明らかに違ってい
た。合唱が始まると集会の雰囲気が一変して、どこか
しんみりとした感じになったことが、今でも鮮明に思
い出される。(文学部専任講師：比較政治学)

アレルギーに対するリスクまたは防御ファクターは何かを探索した、「食とアレルギー疾患との関係」について紹介した。これらの研究から、私たちの身体状態は食と密接に関係し、食べたものが直接身体に影響することが示唆された。

セミナーに参加して下さった方々の感想から、参加した多くの方が自分や家族の健康状態を維持するため、食に対する関心、意識が高いことが伺えた。飽食の時代に何を食べればいいのか、または食べなければいいのかについて意識の下に抱きつつ、食べることの喜びを忘れずに生活していくことが最も望ましいのではないかと考えている。

(人間科学部准教授：食品科学)

2008年度前期活動報告

特別講演会

2008年5月30日(金) 10:35~11:25

「女性と『食の病』」



生野照子氏

会場：神戸女学院講堂
 講師：生野 照子氏
 (神戸女学院大学名誉教授)
 出席者：約150名

連続セミナー「女性における食と健康」

会場：神戸女学院大学ジュリア・ダッドレー館104教室

<第1回> 2008年6月20日(金) 14:00~15:30

「呼吸から診る女性の健康」

講師：下内 章人氏

(国立循環器病センター研究所病因部室長：内科学)

<第2回> 2008年6月27日(金) 14:00~15:30

「匠の技と調理科学との出会い～食品企業での仕事」

講師：笠松 千夏氏

(味の素株式会社食品カンパニー

食品技術開発センター専任課長：調理科学)

<第3回> 2008年7月4日(金) 14:00~15:30

「性差と性差医療」

講師：西田 昌司氏

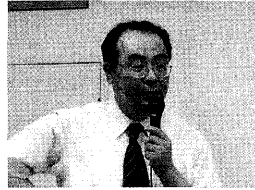
(神戸女学院大学人間科学部教授：健康医学)

<第4回> 2008年7月11日(金) 14:00~15:30

「食べ物に対する身体の応答性について」

講師：高岡 素子氏

(神戸女学院大学人間科学部准教授：食品科学)



下内章人氏



笠松千夏氏



西田昌司氏



高岡素子氏

[受講者：54名、平均出席者：36名(72.4%：当日参加者を含む)、修了証交付者：33名]

2008年度後期講演会等のご案内

■学外講演会

会場：西宮市大学交流センター

(ACTA西宮 東館6階) ※阪急西宮北口下車すぐ

(第1回) 2008年10月28日(火) 13:30~15:00

「マイクロファイナンスの女性と政治参加
 ー南インド農村の事例から」

講師：北川 将之氏

(神戸女学院大学文学部専任講師：比較政治学)

(第2回) 2008年11月28日(金) 13:30~15:00

「賢い消費者となるための心理学
 ～説得テクニックに騙されないために～」

講師：小林 知博氏

(神戸女学院大学人間科学部准教授：社会心理学)

2008年度女性学インスティテュート編集委員

金沢謙太郎、谷祝子、鶴野ひろ子、渡部充(委員長)、
 山本義和(ABC順) 編集事務：溝口芳子

編集・発行：神戸女学院大学女性学インスティテュート

☎662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL/FAX:(0798)51-8545

URL <http://www.kobe-c.ac.jp/gender/>